

アジア記者クラブ2月定例会

出版妨害と恫喝訴訟ではないのか ナベツネと読売新聞を語る

2013年2月22日(金)18時45分～21時
明治大学リバティタワー10階(1106教室)

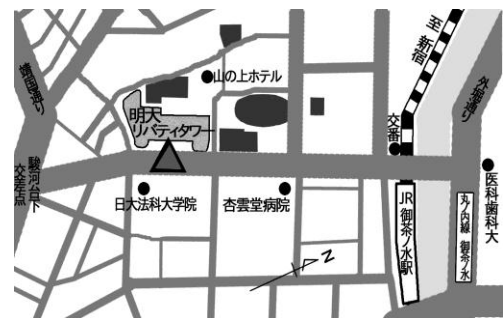
ゲスト 清武英利さん(元巨人球団代表)

アリのような小出版社に巨象のような大新聞社が襲いかかる。スタッフ5人の七つ森書館に販売部数1000万部を公言する読売新聞社が昨年4月に提訴した出版契約無効訴訟は、昨年12月、最高裁で複製本の販売禁止が確定した。事の経緯はこうだ。「ノンフィクションシリーズ“人間”」の中に『会長はなぜ自殺したか——金融腐敗＝呪縛の検証』（読売新聞社会部。1998年新潮社刊）の収録に関して2011年5月に読売新聞社と出版契約を結んだ。筆者名は、「読売社会部清武班」とすることで合意していた。この半年後に行われたのがプロ野球巨人の清武英利球団代表の内部告発だった。

内部告発された渡邊恒雄球団会長が憤激したのはご存知の通り。読売新聞社は出版契約の破棄を求め、七つ森書館が応じないと見るや提訴してきた。ここで最大の問題は、読売新聞社が契約交渉などの事実関係のすり替えを行い、裁判所を使って出版妨害と取られても仕方のない手段を行使したことだ。言論機関ならば言論で訴えるべきであろう。さらに司法判断の基準が、大新聞社が間違っただけを言うわけではないという程度なのだ。司法劣化の実態も深刻なのである。これほど重要な問題の本質を、なぜマスメディアは追求しないのか。

2月定例会は、当事者の清武英利元巨人球団代表をゲストにお招きします。清武さんは今も、読売新聞社から10近い訴訟攻勢を受けている身だ。清武さんを精神的、経済的に疲弊させることを目的とした恫喝（スラップ）訴訟が言論機関によってごり押しされていることに、読売新聞社の社員のみならず、マスメディアは沈黙を続けるのか。「ナベツネ」とは何者なのか。内情を知る清武さんに巨大メディアが抱える病巣、権力と一体化する司法機関とメディアの問題など余すことなく語っていただきます。

- 会場 明治大学リバティタワー10階 1106教室
(東京都千代田区神田駿河台1-1)
- 交通 JR・地下鉄「御茶ノ水」、都営線「神保町」下車
- 費用 ビジター1500円、会員・学生・年金生活者・ハンディのある方1000円
- 主催 アジア記者クラブ (APC)
・社会思想史研究会



- 連絡先 アジア記者クラブ (APC) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-2-13-502
Tel&Fax:03-6423-2452
<http://apc.cup.com>
E-mail:apc@cup.com

※最新の情報(変更・中止の場合があります)は、必ずHPでご確認ください。